

(部分は外部評価との共通評価項目で **自 己 評 価 票**

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p> <p>家族・地域の方々との交流、関りに重きを置いて地域の一員として活動参加に努めると理念の中にある。</p>	○	利用者の身体的な状況、体調を一番に考慮しながら無理の無い範囲で関って生きたい。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p> <p>今日、出来たことが明日も出来るように、無理強いすることなく利用者本人に合わせて取り組んでいる。</p>	○	今まで出来ていたことが時の流れと共に徐々に出来なくなっている現状があるが職員とともに少しでも行なえるよう取り組んでいる。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p> <p>地域での活動の様子など写真を掲示したり、ホームだよりを通じてご理解いただいている。</p>	○	毎日の買い物、地域での活動参加などを通して、自然な形でできる地域への関りを大切にしたい。
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p> <p>立地条件もあり隣近所の方と気軽に声を掛け合う環境になり。民家もなく散歩される方と挨拶を交わす程度に留まる。</p>		
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p> <p>市の広報等からの情報や行事参加のお招きを受け参加可能な行事への参加は行なっている。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	取り組んでいない。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価結果は具体的な改善の気付きとなり活かされている。	○	評価による気付きを重く受け止め、今、出来ることに少しずつ取り組んで生きたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	報告に対する委員の皆さんからの評価・意見を受け取り組んでいる。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	時に訪問を受け利用者の皆さんの状況を実際目で見ていただく機会もある。解らない事や不安に思う事があれば担当職員を訪ねたり電話で相談をし指導を受けている。	○	必要に応じて関り指導を受けたいと思う。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	パンフレット等を用いてホーム内の研修を行なっている。現時点では制度の活用を必要とする利用者はいない。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は虐待に関するホーム内研修を受け、虐待防止に取り組む徹底されている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居決定前に契約書・重要事項説明書に関し約束事の説明を行い内容を理解、納得された時点での利用契約の成立としている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者は職員へ自由に発言し職員は意を汲んで対応している。利用者は代わる代わるに運営推進会議に出席し何かしらのホームでの生活について等、話したりする。	○ 表現できる方、出来ない方がいる。今以上に意に添った対応、汲み取りが出来るよう関わって行きたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	個々の家族に面会時等を利用し生活ぶりや健康面、気になる所などおこずかいの収支も含め報告している。	○ 個別の面談等の機会があったほうが良いと思われるが実施するに至っていない。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談の窓口の設置はある。どんな些細な事でもと常日頃、話をするが意見等は聞かれない。個々の家族の相談事には出来る範囲で対応している。	○ 運営推進会議へ出席されているが一部の家族の為、他の家族への出席を促す働きかけをしている。(事情・都合もあり無理強いはいできない)
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	特に日を決めると言う事はないが、意見・提案のある時はそのつど話をし対応してもらっている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	状況に応じて対応している。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動はあるが、ほとんどの職員が認知症ケアの経験者で利用者を知っている方、関ったことがある方が配置となり、利用者への大きなダメージはなく経過している。利用者に対し優しく接する職員が多く有り難い。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要とされる研修参加への指示はある。状況は日々変わっていく中新しい情報、知識を身につける事の重要性を折りに触れ職員に伝えている。	○ 勤務状況に余裕があって実現する。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岩手県グループホーム協会沿岸ブロックの定例会に参加し交流を図っている。時々、ドライブを兼ね立ち寄りしているが刺激を受けることが多い。(市内の全てのグループホームと交流の状況にはない。)	○ 地域で最初にできたホームと言う事もあり同業者からの色々な問い合わせがある。未熟ではあるが解る範囲、できる範囲で対応している。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	勤務表作成時、休日の希望日を受けシフトを組んでいる。慰安旅行等を計画し、職員が職場を離れリラックスし楽しむ時間が持てるよう参加を促し実施している。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員は日々の積み重ねの中で運営者の応援を受け介護福祉士等の資格取得の目標に向かい努力し勤務して要る。利用者に対しより良いサービスの提供を折りにふれ職員に説く機会がある。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談者は家族の方がほとんどで在宅での介護困難のケースが多い。	○ 家族の相談を受け、本人と会いたい事を伝え、本人と会い関り、状況を知るところから始めている。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用に当たり介護困難の部分を把握した上で職員は情報の共有をし初期対応している。	○ 入居利用開始と同時に始まるサービスの提供は環境の変化に少しでも戸惑う事が無い様にホームに慣れる事・人に慣れる事に目標を定め、声をかけ見守り関っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期に一番必要とされる事は「慣れる・落ち着いて生活できる」ということに尽きると思われる。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームへの訪問をお願いしている。短時間でもホームの雰囲気や様子を知って頂く上で重要と考えている。職員も本人を知る良い機会となっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家事や作業の場面では知恵を拝借することが多々ある。共に活動する事で頼ったり頼られたりと良い関係ができています。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族と共に過ごすホームの行事参加を通じて、また面会・外出・外泊を通じて家族との関りを少しでも多くとお願いしている。	○	家族の都合・事情もあり出来る範囲での家族との関係を保っておられると思う。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族との関り、面会等が月1回・支払いの時という方も中にはあるが、介護出来ないから預けているという想いを表現されたとき、家族の状況を理解し支援する。優先順位は家族の気持ち考えと言う事になる	○	利用者が元気に変わらない状況であれば大きな問題はないが体調を崩し寝込むような時には、そばで寄り添う家族の姿があれば願うが、これも無理強いできる事ではない。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親類縁者に限らず、知人・なじみの方々の面会はあり関わりが続いている。日々の外出ドライブ等でなじみの場所・自宅付近へ行ったりしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者の皆さんは、なじみの面々が側に居ることに安心を覚え穏やかに暮らしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居理由の多くが併設病院への入院と言う事で、本人の状況により面会し声をかける程度にある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	表現できない方が多い。言動・行動を通して気持ちを汲み取り対応しているが家族に相談し協力を得ることもある。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、本人もしくは家族にバックアセスメントシートへの記入をお願いしている。他のサービス利用歴は事業所からの情報提供を頂き把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	24時間アセスメントシートに記入し日々の様子、状況を見ながら、出来ること、出来ないことを総合的に把握し支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	24時間アセスメントシートへの記入、内容の確認、サービス提供の必要性、家族の意見を総合し介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的にケースカンファレンスを行い見直している。変化が生じた場合には暫定的に、今、必要とするサービス内容へと変更し家族へ報告し現状に即した介護サービスを提供している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	サービス提供記録表へ毎日記入し記録し見直している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の要望に応じて必要な対応をし支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアの皆さんや消防署等、多くの方々の支援を受けている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者へ他のサービス利用の支援はしていない。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現時点ではない。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望もあり併設病院の医師が主治医となり、職員は必要に応じて受診の支援をしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	本人・家族・主治医の話し合いの決定、結果を受けて対応する。
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人一人に合った対応がなされているが、難聴の方が多く指示を理解出来ない状況が日常的にあり、耳元で大きな声で繰り返しの対応が現況である。記録等の管理はなされている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	自主的な気好き、動きにサポートする形で、また声がけによる判断、納得し行動できるよう支援している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床から就寝まで本人の意思を尊重しているが判断できない方には声を掛け確認をし支援している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	パーマ、毛染め等、本人の希望にそった支援をしている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備から後片づけまで「できること」への作業を促しながら出番の声をかけ職員と共に日々取り組んでいる。	○ 自然に出来る範囲で共に活動できるよう今後も取り組んで行きたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	特に制限はない。好み、状況に合わせている。	○ 飲酒・喫煙する利用者が今まで入居した例が無く、制限はしていないが判断しかねる。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者それぞれの排泄状況を把握し支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は月曜日から土曜日の週6日間・午後行なっている。本人の希望、納得のもと入浴を楽しんでもらえるよう支援している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者の状況を見ながら昼夜通じて支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事参加、散歩、ドライブ、作業等、好むこと・出来ることに目を向け支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭に執着のある方は少ない。財布を所持し、使い、家族がおこずかいをくれることを楽しみにしている方もあり両替等の希望に応じ支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に買い物やかねたドライブや畑を見たりと外出、外気浴等戸外へでる機会を多くもち関わり支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年間行事を通じ家族と外出する機会を提供している。日々のドライブは目的地を決めてもらい外出の支援をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話があり自由に使っている。遠く離れた家族との通話の支援を必要な方にはしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時はゆっくりと過ごせるよう配慮しお茶や菓子の提供をしている		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は無い。身体拘束に関する資料を用い研修・職員全員で取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間の施錠以外、玄関に鍵をかける事はない。ただし出入り自由のため目を離せない状況もあり玄関の開閉はセンサーが音で知らせる設備があり人の出入りを察知できるようになっている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は昼夜を通じて利用者の所在確認、人員確認をし安全確認を徹底している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	判断できない物品は見えない所に保管する等の取り組みをしている		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者一人一人の状況を把握し事故発生のリスクに応じ関わっている。緊急通報体制や併設病院との緊急時対応、防災日誌を活用し事故防止と発生時対応に取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	夜間帯夜勤者1名の体制で不安を覚える職員が多い。	○	定期的な初期対応の訓練は行なっていない為、必要性を感じる
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に消防署員の指導を受けながら訓練を行なっている。地域の方々へ緊急時対応の協力をお願いしお引き受け頂いている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	疾病によるリスク、高齢であること、日々の暮らしの変化、必要に応じ理解して頂けるよう家族と話をし本人にとってベストとなる支援をしている。	○	高齢であることイコール・リスク、いつ何時、なにが起こるかを職員は勿論の事、家族も入居しているから安心という考えから切り離して、心してほしいと感じる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々のバイタル測定データをもとに異変に気がつくケースが多い。情報は申し送り事項となり記録される。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方されている薬の内容を知り、利用者の状態の変化を見ながら必要に応じ主治医に報告、相談している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	慢性の便秘症の方が多い。無理なく嫌がらない範囲で水分を多めに摂ること適度な運動を心がけ促している。便確認できない方にはセンナ茶をすすめ便秘対策している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアはしていないが食後お茶を飲むことで口腔内の清潔が少しでも保てるよう促している。	○	自主的に義歯洗浄する方もいる。全員に毎食後、口腔ケアを強いる事は状況的に困難・混乱が生じると思う。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は利用者が好むメニューで食卓を彩っている。残食は無く、1日を通じて水分、食事摂取量に気を配り粥食・刻み食の支援を一人一人の状況に合わせて取り組んでいる。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	法人を通じての研修に参加し指導を受け予防に取り組んでいる。	○	手洗い・うがい等、今まで通り、日々出来ることで予防に取り組みたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	水まわりの清潔に努め衛生管理のもと、食中毒の予防に取り組んでいる。	○	未然に防ぐ事に重きを置き、常日頃からの予防に努めたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	外観も普通の家というより施設という色が濃いですが、自由に出入りできるようになっている。面会等、来訪者は自由に出入りしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所・食堂・談話の場が一つの空間になっており、利用者はひとめで全体を見渡す事が出来、安心して居心地良く生活されていると思う。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホーム内、あちこちにソファ・椅子・ベンチを置き好きに自由に過ごせるよう工夫している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には使い慣れた者、なじみの品を持ってきて頂く様にお願いしている。利用者はそれぞれ今の状況を居心地良く感じ生活されていると思う。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	ホール全体には空調設備があり稼働している。利用者の状況に応じ窓の開閉やエアコンの使用などそのつど調整している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内の壁には全体に手すりが取り付けられている。所々に椅子等を置き、休み休みでも自力で動くことを助ける工夫がされている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	ホームでの生活で探す場所は自分の部屋とトイレが多い。表札、表示することで誘導を必要とされる方もあるが戸惑いを減らそうと工夫している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	各居室の外には、プランターを置き好みの花を植え育て楽しんでいる。玄関先には大きなベンチを置き自由に外気浴をしている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

日々の暮らしは、「利用者本位」色々な場面で声をかけながら、気付く工夫をしながら、無理強いすることなく9名の利用者と共に支えあい、サポートしながら居心地の良いホームでの生活を守って行きたい。